

平成 24 年 7 月 31 日

前期を終えて ロンドンオリンピックと女性

学長 木元 幸一

第30回オリンピックがロンドンで開催されています。日本人のメダル獲得が何よりも気になる所ですが、今回のロンドンオリンピックには女性に対して重要なメッセージが発せられています。今回初めて、オリンピック全競技で男女の種目が実施され、全競技に女性が参加しています。また、女性の参加がなかった国に対して参加を呼び掛け、オリンピック史上初めてすべての国・地域から女性選手が参加した大会となりました。オリンピックは、ギリシャのゼウスの神殿のあったオリンポス(オリンピア)で古代オリンピックが開催されたことに始まります。古代オリンピック終焉から1500年後、フランスのクーベルタン男爵の提唱により古代オリンピック開催地のオリンピアの名前を冠して1896年ギリシャのアテネで第1回近代オリンピックが開催されました。第1回の近代オリンピックは、古代オリンピックと同じく女子禁制の男子だけの大会でした、第2回のフランス大会で16競技60種目が行われ、19ヶ国から1066人参加し、そのうち女子は12人でした。ロンドンでの開催は、第4回、14回に続いて今回で3回目となります。代表的な伝統ある近代国家であり今でも世界をリードしているイギリスという国が、世界のスポーツの祭典であるオリンピック開催をきっかけとして、男性と同じく女性の存在とその社会的活動を認めることをメッセージとして強く世界に発信したことは素晴らしいことと受けとめられます。ロンドンオリンピックが、メダルを取るだけでなく参加することに意義があるという原則や抽象的オリンピック讃歌だけではない具体的なメッセージを発したところに大きな意味があるように思います。どうしても国威発揚の機会として、日本だと日本の素晴らしさを世界にアピールしたいと自国中心に考えがちになりますが、今回の女性に対するメッセージは、イギリスのような伝統あるヨーロッパ文明の近代国家も勿論、世界中で女性が活躍し、日本の女性も、男性と共に地球を守っていかなければならない時代が直ぐそこまで来ているのだと受け取る必要があるのではないのでしょうか。オリンピックの開会式に向かって多くの有名人が登場したようですが、最後の聖火ランナーが10代の7人の若者であったことも清々しく未来への希望が感じられました。

近代オリンピックでは、アスリートがその力を十分に発揮できるためにも多くの技術と知恵が活用されています。本学卒業生で、Hulip(ヒューマンライフ支援センター)の内野講師がパラリンピックの栄養指導員としてロンドンに派遣されています。女性の活躍はアスリートだけでなくそのサポート分野においても多くを見ることができます。当然、今学生である若い皆さんには、将来大きな期待がかけられています。東京家政大学での勉学と学生生活を大切に、大きな目標を持って充実した大学生活を送って頂きたいと思います。

ギリシャが古代オリンピックと近代オリンピックの発祥の地ですが、そのギリシャがユーロ国の中で財政危機となりユーロ脱落か除名かという危機に瀕しています。一方、イギリスは欧州連合加盟国に入っていますが、ユーロという通貨同盟には入っていません。伝統を守り、今も盛んに発展し続けるという事は難しいものです。

東京家政大学も130年の歴史と伝統の中で、新たな時代に向けて多くの皆さんが社会で活躍してくれることを心より願っています。前期が終わりこれから長い夏休みが始まります。前期、不本意にスタートしたかなと感じた人は是非この夏休みを有効に使って、後期に備えてください。1年生の皆さんには、e-kaseiから提供される導入教育が、何時でも何処でも皆さん自ら自由に学べる形で提供されています。読書も自らの取り組みの一つです。家政大生の100冊の中からも自分で選んだ本でも良いですから読書をしましょう、読書を続けると、自分の考えを持てるようになり、表現力も身に付きます。世界中で女性の社会貢献が期待されています。是非、考えられた有意義な夏休みを過ごしてください。